

(36)



9170-1 829

I-0398





高秩第一六二三號

昭和八年七月二十一日

警視總監 藤 沼 在 平

内務大臣 山本 達雄 殿  
各 廳 府 縣 長 官 殿

中村井杉記念碑建設計劃ニ関スル件

東京市京橋區銀座西五丁目 對鶴館ビル内

中村井杉記念費建設會

右會ニ在リテハ滿洲事変直接ノ導火線デアリ且ツ  
滿洲國獨立ノ素因ヲ爲シタル參謀本部々員陸  
軍歩兵少佐故中村震太郎及陸軍々屬井杉延

太郎西氏ノ尊キ犠牲ニ對シ之ヲ永久ニ記念スル  
爲メ陸軍中將江戸川辰三ヲ建設委員長ニ伯爵  
清浦奎吾、陸軍大將鈴木在六、同南次郎、三氏  
ヲ顧問トシテ遭難現地タル内蒙古蘆鄂公爺府  
ニ標碑ヲ兆南ノ地ニ記念碑ヲ建設スヘク計劃中  
ナルモ募集金總額約五萬圓ニシテ本月二十日別添(各  
廳府縣ニハ添付ス)ノ如キ趣意書並ニ關係書類三千  
部ヲ作成シ全國師團司令部、聯隊區司令部、海軍鎮  
守府、各廳府縣長官、全國各市長、都下新聞社其他各  
方面ニ発送セリ  
右及申(通)報候也

内外紀念碑會(子)部

S 9170-1 831

S 9170-1 830

I-0398

0536

發起人

(イロハ順)(〇印建設委員)

建設委員長 陸軍中將 井戸川辰三  
順 問伯 爵清浦奎吾  
順 問陸軍大將 鈴木莊六  
順 問陸軍大將 南次郎

醫學博士

。入澤達吉

陸軍中將

永井柳太郎

。五百木良三

陸軍中將

永井來

井坂秀五郎

陸軍少將

永田鐵山

。今村均

陸軍中將

武藤山治

磯谷廉介

陸軍中將

。上原平太郎

磯矢伍郎

陸軍中將

植田謙吉

。石垣清

陸軍少將

梅津美治郎

。鳩山一真

陸軍少將

梅澤銀造

。秦真次

陸軍步兵大尉

野間清造

。畑俊六

陸軍步兵大尉

柳澤啓造

。林博

陸軍大將

安河内祐二

。林銑十郎

陸軍中將

真崎甚三郎

。土師長次

陸軍中將

增井潤次郎

。二宮治重

陸軍中將

古莊幹郎

。堀内文次

陸軍中將

。二子石官太郎

。堀内三郎

醫學博士

近藤乾郎

。等々力森蔵

陸軍步兵中尉

近藤傳八

。土肥原賢二

陸軍少將

。江藤源九郎

。頭山一

陸軍騎兵大佐

。寺田正男

。小原正忠

陸軍砲兵大尉

。安藝晋

。大井成元

陸軍中將

。有末次

。大谷尊由

海軍中將

。赤井春海

。大津留重

陸軍中將

。安東昌喬

。大野尚道

陸軍中將

。佐藤清勝

。大迫尚

陸軍中將

。佐藤信

。岡村寧次

陸軍中將

。笹川良一

。岡本忠雄

陸軍中將

。木原仙八

。岡田為熊

陸軍步兵大佐

。貴志彌次郎

。奧平俊藏

陸軍中將

。木下亮九郎

。賀茂百樹

子爵

。菊池武夫

。河野恒吉

陸軍中將

。三室戶敬光

。河野正直

陸軍中將

。三宅光治

。河本大作

陸軍中將

。四王天延孝

。多賀万城

陸軍中將

。白井三郎

。谷田繁太郎

陸軍砲兵大佐

。兩角三郎

。高田利樹

陸軍步兵中佐

。鈴木謙二

。高津利光

陸軍少將

。鈴木喜三郎

。高山公通

陸軍少將

。鈴木重康

。高平小太郎

陸軍少將

。荒川貞夫

。竹下義人

陸軍中人

。柳川平助

。建川美次

陸軍中將

。荒川貞夫

。中村明人

陸軍中將

。柳川平助

。中田錄吉

陸軍中將

。柳川平助

。中島虎吉

陸軍中將

。柳川平助

陸軍中將

。中島虎吉

陸軍中將

。柳川平助

陸軍步兵中佐

。中田錄吉

陸軍中將

。柳川平助

陸軍步兵中佐

。中田錄吉

陸軍中將

。柳川平助

陸軍步兵中佐

。中田錄吉

陸軍中將

。柳川平助

陸軍步兵中佐

。中田錄吉

陸軍中將

。柳川平助

陸軍步兵中佐

。中田錄吉

陸軍中將

。柳川平助

陸軍步兵中佐

。中田錄吉

陸軍中將

。柳川平助

陸軍步兵中佐

。中田錄吉

陸軍中將

。柳川平助

陸軍步兵中佐

。中田錄吉

陸軍中將

。柳川平助

陸軍步兵中佐

。中田錄吉

陸軍中將

。柳川平助



9170-1 832

I-0398

0530

趣意書

昭和六年六月參謀本部々員陸軍歩兵少佐中村震太郎君、重要なる任務を帯びて、陸軍軍屬井杉延太郎君を伴ひ、深く滿蒙の奥地を探り、ほゞ其の使命を果して將に洮南に出でんとするの途上、蘇鄂公爺府附近の民家に於て、暴戾なる支那正規兵の襲ふ所となり、故なくして拉致せられ、不幸にも彼等の殘虐なる兇刃に斃れたり。英魂永へに去りて茲に二歳、近く其の三週忌を迎へんとす。

而もこの事件を轉機として、支那軍閥の暴虐益々甚だしく、其の歲九月更に柳條溝の事變を醸し、爲めに皇軍の活動となり、張學良政府乃ち没落して、爰に滿蒙三千萬民衆の蹶起を促し、其の總意の下に、新に東洋平和の確立、萬民安住の樂土建設を理想とせる滿洲國の獨立を見たり。爾來僅かに一年を経たるに過ぎずと雖も、日滿兩國は、曩に攻防同盟を約し、相倚り相扶け、外、敵侮を禦ぎ、内、兵匪を平けて治安の維持に力め、經濟的施設を完備して財政を整理し、着々として建國の大理想を實現しつつあり。今や熱河全く治まり、五省統一を完成して、滿洲國の前途は洋々として倍々多幸なるを想はしむ。日滿兩國の關係亦愈々親善を加ふるをみて、我等は、不慮の犠牲者たる中村少佐等を憶ふの情惻々たるを禁ずること能はず。

惟ふに滿蒙の地は、嚮に我が精銳十萬の生命を賭し、二十億の國帑を投じ、二十餘年に涉りて拮据開拓せられたるもの、其の國防上、經濟上の見地よりしても須臾も等閑に附せらるべき所にあらず。然るに頃年橫暴飽くなき支那軍閥の跳梁は、偶々我が國民關心の弛緩に乗じ、事毎に邦人を迫害し、擅に既得の權益を蹂躪して遂に此れを根抵より覆へんとするに至れり。少佐等の任に赴く正に此の時に際し、彼等人心の乖離いたく危険を藏し、遠く胡北を探るは身邊の安危豫め測るべからざるものあり。然れども少佐等は武人なり、唯使命の重大なるを知りて生死固より論ぜず、一意成功の萬全を期して周到なる用意を整へ、敢然として不毛に入り終に還らず。土人其の死を傳へて具さに最後の壯烈を語る。

此の報一度傳はるや強く我が國民の滿蒙に對する關心を刺戟し、義憤烈しく發り、聽て皇軍膺懲の師となり延いて滿洲國の獨立となる。我が國の權益こゝに全く確保せられ、滿蒙三千萬民衆は軍閥批政の桎梏を脱して永く平和安樂の郷土に其生を愉むを得たり。願ふて少佐等の死決して徒爾ならざるを知る。

然るに其の遭難を弔ふべく胡北の曠野に建てられたる木標は、風雨に曝露して荒廢に委し、少佐等の名亦漸く國民の耳朵に遠ざからんとす。我等深く此れを憂へ、同志相謀り記念碑を建設して、永く少佐等の功績を録し其の英靈を慰むること共に、併せて日滿兩國不可離の關係を汎く天下に傳ふるの資料と爲さんと欲す。

冀くは諸彦奮つて此の舉に翼賛せられんことを。

昭和八年五月

東京市京橋區西銀座五丁目(對錦館ビル内)電話銀座(56)二三九二番

中村記念碑建設會

建設委員長 陸軍中將 井戸川辰三

顧問 問伯 爵 清浦奎吾

同 陸軍大將 鈴木莊六

同 陸軍大將 南次郎

S 9170-1 833

S 9170-1 834

謹啓 彌々御清通之段慶賀此事に奉存候  
 陳者吾等日本國民が最大關心を有する滿洲  
 國も今や熱河全く治平し北支の紛糾亦平常  
 に復し着々として建國の大理想を實現し倍  
 々獨立國の面目を發揮しつつあることは邦  
 家の爲め御同慶の極みに御座候 滿洲事變  
 當初の犠牲者たる陸軍歩兵少佐中村震太郎  
 君及び陸軍々屬井杉延太郎君の名は國民の  
 記憶に猶ほ新たなる所にして少佐等の事件  
 が滿洲國獨立の因を爲し又導火線たり、事  
 は諸賢の御確認せらるゝ所と存じ申候 本  
 年六月廿七日は其の三週忌に相當いたし申  
 候就ては此の機會に際し吾等同志相謀り少  
 佐等の爲めに記念碑を建設して永く其の英  
 靈を慰弔いたし度特に尊台の御賛同を熱望  
 致し申候 別紙趣意書發起人名簿記念碑設  
 計概要等御高覽に供し申候間何卒此舉に異  
 賛せられ御醸金を煩はし度切望の至りに御  
 座候 敬白

昭和八年七月

中村記念碑建設會  
 井杉

建設委員長

井杉 敬白

顧問

伯耆清浦奎

同

佐々木 敬白

同

陸軍大佐 敬白

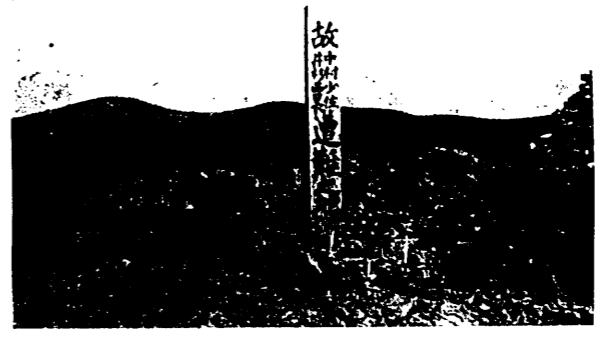
S 9170-1 835

S 9170-1 836

# 建設計畫大要

一、建設位置 蘇鄂公爺府(遭難現地)ニ標碑ヲ、洮南(行動準備地)ニ記念碑ヲ建設セントス

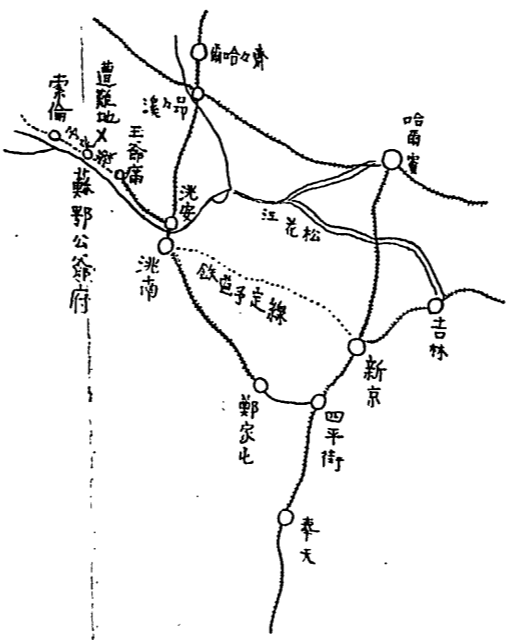
遭難現地



出發時ノ壯姿

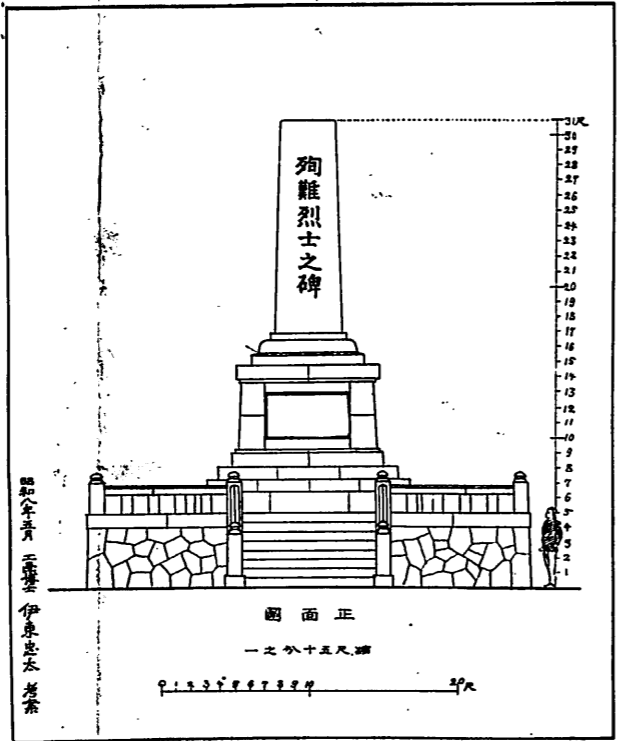


建設位置附近要圖



二、設計大要 設計ハ工學博士伊東忠太氏及武石弘三郎氏ニ委嘱

設計要圖左ノ如シ



三、建設費募集金額豫算 金 五 萬 圓

内 譯

記念碑費及土地購入費	金三萬五千圓
保 續 費	
祭 典 費	金壹萬五千圓
工 費 並 雜 費	

中村 井杉 記念碑建設會



9170-1 838



9170-1 837

I-0398



電信課長

大臣  
次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計 會社 調查

寫送先

分送丁 1.7.0.3-1)

大關  
昭和9.28

一八六五六 暗

新東京  
本省

廿七日後發  
九月廿七日後着

亞三

廣田外務大臣

菱刈大使

第一一四四號

貴電第九六一號ニ關シ(中村大尉記念碑輸入税免除方)

滿洲國側ニ照會シタル處本件ハ特種ノモノニアリ免税方考慮スヘキ

旨回答越セルニ付テハ發送日取決定ノ上ハ荷受人荷受人運送取扱人

及輸送經路豫メ電報アリタシ尙梱包面ニハ中村大尉記念碑ト墨書ア

リタキ趣ナリ

外務省



9170-1 839

本報社  
九月廿七日

I-0398



東亞局

普通第一三〇六號

昭和十年 四月廿二日

第二課

昭和拾年四月廿日  
(別紙添附)

D

東亞局  
10.5.1  
第二課

在鄭家屯

領事瀧山靖次郎



外務大臣 廣田 弘毅 殿

昭和十年 四月廿二日附 在滿大使宛 普通

第二〇六號寫送付

件名

一、中村、井杉兩烈士紀念碑建設ニ關スル件

在鄭家屯日本領事館



9170-1 840

I-0398

0542



寫

普通第二〇六號

昭和十年四月廿二日

在鄭家屯

領事 瀧山靖次郎

在滿洲國  
特命全權大使 南次郎 殿

中村、井杉兩烈士紀念碑建設ニ關スル件

中村、井杉兩烈士由緒ノ地タル洮南及遭難地蘇鄂公爺府ノ兩地ニ殉  
難紀念碑ヲ建設スヘク軍部肝入ノ下ニ地元ノ熱誠ナル贊同ヲ得テ客  
秋既ニ敷地ノ選定及地鎮祭ノ執行ヲ了シタルカ目下解氷期ニ入りタ  
ルヲ以テ引續キ工事ヲ開始シ着々進捗中ニテ洮南ニ於ケル紀念碑ハ

在鄭家屯日本帝國領事館

9170-1 841

驛前附近ニ地ヲトシ總面積九十六坪、地下八尺ノ基礎工事ヲナシ碑  
台ハ地上五尺、正面十六尺一寸側面十四尺、碑高地上ヨリ三十三尺  
四寸ノ設計ニシテ全部茨城縣本樺穂石ヲ使用スルモノナリ而シテ之  
カ設計ハ伊東忠太博士ノ手ニ成リ碑文「殉難烈士之碑」ハ在郷軍人  
會長鈴木莊六大將ノ揮毫、彫刻ハ武石弘三郎之ニ當レル由ニテ蘇鄂  
公爺府ノ碑ハ地域ノ關係上單ニ遭難現地タルコトヲ表示スルノミニ  
テ高サ約十尺ノ小規模ナル設計ニシテ中村少佐ノ出身地新潟縣産磨  
石ヲ使用スルコト、ナリ居レリ  
尙之カ建設經費ハ兩地ノ分ヲ合シ三萬五千圓、保存費、祭典費一萬  
五千圓ヲ計上シ居リ六月二十日頃迄ニ竣工セシメタル上同月三十日  
盛大ニ除幕式ヲ舉行スル豫定ナル由ナリ

在鄭家屯日本帝國領事館

9170-1 842

I-0398

0343

右報告申進ス

本信寫送付先

外務大臣、奉天、齊々哈爾、

在鄭家屯日本帝國領事館



9170-1 843

I-0398

0544

東亞局

第二課

昭和拾年六月廿七日  
有附屬物

東亞局  
10  
第二課

昭和十年六月十五日

外務省御中

濟南居



拜啓時下盛夏の候意々御清達奉賀候陳者甚に多大の御配慮に  
依り被工致候濟南忠魂碑建設を永く記念する爲め記念寫眞帖  
調製御禮の一端として別封一部贈呈仕り候間御受納被成下度  
先は右御挨拶迄如斯御座候  
敬具

濟南居留民團



9170-1 844

I-0398



東亞局

第二課

普通第一八四號

昭和十年六月三日

在鄭家屯

領事瀧山靖次



外務大臣 廣田 弘毅 殿

昭和十年六月三日附在滿大使宛 普

通

第二八九號寫送付

件名

一、故中村少佐及井杉曹長ノ遺骨發見說ニ關スル真相報告ノ件

在鄭家屯日本領事館

昭和拾年六月拾日  
(別紙添附)

D

水亞局  
10.6.10  
第二課



9170-1 845

I-0398

0398

寫

普通第二八九號

昭和十年六月三日

在鄭家屯

領事 瀧山 靖次郎

在滿洲國

特命全權大使 南

次郎 殿

故中村少佐及井杉曹長ノ遺骨發見說ニ關スル  
真相報告ノ件

故中村少佐及井杉曹長ノ遺骨發見ト題シ先般各新聞紙上ニ報道セラ  
レタルニ對シ洮南警察分署ヲシテ取調ヘセシメタル結果其真相別記  
ノ通ニシテ右ハ兩烈士ノ遺骨ニアラサルコト略々明瞭トナレル趣ナ

在鄭家屯日本帝國領事館

S

9170-1 846

リ

右何等御參考迄報告申進ス

本信寫送付先

外務大臣、奉天、齊々哈爾

在鄭家屯日本帝國領事館

S

9170-1 847

I-0398

0540

寫

目下洮南及蘇鄂公爺府ニ於テ中村井杉兩勇士紀念碑建設中ニシテ工  
事責任者タル落合角藏ハ五月十三日蘇鄂公爺府附近土中ニ埋レタル  
喇嘛教ノ教卷ヲ發見シタルヲ以テ中村井杉兩勇士遺骨ノ所在ヲ示ス  
何カノ暗示ニ非スヤト直感シ王爺廟警察局伊藤巡官ト共ニ之カ捜査  
ノ爲附近最高ノ山頂ニ至リ右山峽ヲ望見中紀念碑所在地東南方約三  
支里ノ山腹ニ石垣ノ如キモノヲ認メタルニヨリ不審ニ思ヒ現場ニ至  
リタルニ多數ノ小石ヲ積重ネアリシヲ以テ之ヲ取除キタルニ頭蓋骨  
及顎骨ヲシキモノノ外多數ノ小骨ヲ發見シタルヲ以テ兩勇士ノ遺骨  
ニ非スヤト思料シ之ヲ取纏メ飯宿シ此ノ旨王爺廟警察局ニ對シ報告  
シタル結果不取敢同局ニ於テハ五月十八日福原科長ヲ現場ニ派シ右  
遺骨ヲ木箱ニ納メ飯王セシメタルモノニシテ力眞否判明セサル

在鄭家屯日本帝國領事館

S 9170-1 848

内新聞ニ報道サルル處トナリタルモノナリ  
其後同局、旅公署<sup>及</sup>王爺廟憲兵分遣隊ニ於テ調査ノ結果蘇鄂公爺府居住  
蒙古人嘯儒地ノ妻女カ民國十九年五月死亡シタル際同所ニ埋葬シタ  
ルニ其ノ後山火車ニ遭遇焼却セラレタルモノニシテ兩勇士ノ遺骨ニ  
非ラサルコト殆ント確定的ナリ

在鄭家屯日本帝國領事館

S 9170-1 849

I-0398

0548

ア三

分類 I 1.7.0.3-1 )

東亞局

普通第二一七號

昭和十年七月三日

第二課

名簿

本印記帳簿

三

昭和拾年七月九日

(別紙添附)

D

東亞局 10.7.9 第一課

外務大臣 廣田 弘毅 殿

在鄭家屯

領事 瀧山靖次



昭和十年七月三日附 在滿大使宛 普 通

第 三五二號寫送付

件名

一、中村、井杉兩烈士紀念碑除幕式舉行ノ件

在鄭家屯日本領事館



9170-1 850

I-0398

0549

寫

普通第三五二號

昭和十年七月三日

在鄭家屯

領事 瀧山 靖次郎

在滿洲國

特命全權大使 南次郎 殿

中村、井杉兩烈士紀念碑除幕式  
舉行ノ件

故中村少佐及井杉曹長ノ紀念碑建立ニ關シテハ四月二十二日附  
普通第二〇六號拙信申進ノ次第アル處右ハ先般竣工セルヲ以テ  
遭難現地蘇鄂公爺府ノ標碑ハ客月二十六日、洮南ニ於ケル紀念

在鄭家屯日本帝國領事館

昭和十年七月九日 受

9170-1 851

S

K

碑ハ同二十八日兩烈士ノ遺族大名ヲ迎ヘテ何レモ盛大ナル除幕式  
ヲ舉行セリ而シテ蘇鄂公爺府ニ於ケル式典ノ參列者ハ地域並交通  
機關ノ關係上遺族、近親者、建設委員並王爺廟在留邦人主要者ニ  
限ラレタルモ洮南ニ於テハ内地及益滿各地ヨリノ參列者多數ニ上  
リ極ノテ殿廟裡ニ祭典ヲ執行セルカ當日ハ本官モ亦參列シ祭詞ヲ  
述ヘ直ケリ

右報告申進ス

本信寫送付先

外務大臣

在鄭家屯日本帝國領事館

9170-1 852

S

I-0398

0550